

でして求める『道』って何？」と立ち止まって考えるでしょうか。

自分にとつて、そこまでして知りたい道ってあるだろうか。

どうしてそんなに道を知りたいのだろう。

道を知ったら、そこには何が待っているのだろう。もう死んでもいいって、どんな心境なのだろう。

そんなことを考えているうちに、時間は過ぎていくでしょう。しかし、それでよいのです。それが「考える」ということです。

その日、その一文と出会い、立ち止まって考える。すると、考えた分だけ、言葉が心に刻まれます。

一度に何十個も頭に入れる必要はないのです。「今日はこの言葉と生きてみよう」と思える。それは豊かな時間の過ごし方です。

江戸時代の寺小屋での学びは、音読、素読を繰り返し、言葉を暗唱して憶えることでした。つまり、体に刻み込むような学び方です。その日に憶えた一文が、その人の内側を支える「骨」として残っていくわけです。

遅読は、人生を支えてくれる柱のような言葉を、自分の中に一本、また一本と増やしていくことができる読み方なのです。

(中略)

最近では、ChatGPTのような対話型の生成AIを使うことで、単なる検索以上のことができるようになってきています。

対話型の生成AIは、人間と自然に会話しているようなやりとりができます。

私はあるとき仙台市で講演をすることになり、話のタネに使おうと「仙台を盛り上げるキャッチフレーズを面白い俳句でつくって」と、生成AIに頼んでみたところ、「杜^{もじ}の都 牛タン食べて 伊達になる」という句が返ってきました。

「短歌にして」と言う。「仙台は牛タン、マサムネ、ズンダまで欲張りすぎて腹が伊達ばら」と。思わず笑ってしまいました。AIには、こういう遊びができる面白さがあります。

ここで大事なのは、AIが出してくるアイデアをそのまま使わずに、「自分だったらこう表現する」と、自らの考えを^②発展させていく材料にすることです。

そのために必要なのが「思考の粘り」です。AIの提案をそのまま受け入れるのではなく、自分の考えや視点を組み合わせることで、オリジナルのものを生成していくことが、今後は求められています。

粘り強く考え続ける「脳の持久力」が大事なのです。

この持久力は、まさに「遅読」によって鍛えられるものだと思います。

本を読みながら「この一文はどういう意味なんだろう」「この場面は何を^③シヨウチヨウしているんだろう」と、すぐに投げ出さずに立ち止まりながら思考する。この時間が、AIとの対話でも生きてくるわけです。

遅読という行為は、走ることにたとえるならば、毎日5キロ、10キロと走って持久力を鍛えることに当てはまります。つまり、遅読は「思考の持久走」なのです。

ゆっくり、じっくり、一文一文を噛みしめて進んでいく。その姿勢は、AI時代の情報との付き合い方にも直結してきます。

生成AIとのやりとりに使っている言語は、私たちがふだん使っている日本語です。よって、読書によって鍛えられる日本語力は、AIにもそのまま通用するのです。

AIとの文字（テキスト）を使った対話では、結局のところ「読む力」「考える力」が問われます。そう考えると、AIの活用でも、「読書の力」が土台となっているのです。

実際、読書慣れしている人のほうが、AIの出す長い文章に対して抵抗なく向き合えるようです。コンピュータと読書は関係なさそうに見えますが、私は、ふだん使う言葉の^④セイト^④が高いほど、AIを生かし切れ

るのではないかと考えています。人工知能を使いこなせるのは、理数系の専売特許ではなく、読書の力なのです。そしてもうひとつ、忘れてはならないのが、読書によって果たせる「人格との出会い」という観点です。

生成AIには、知識や表現力がありますが、人格はありません。一方、本には著者の人生が^⑤ノウミツに詰まっています。遅読によって、その世界にゆったりと身を置くことで、さまざまな人生観や世界観に直に触れることができます。それはまさに、著者の人格に出会うことだと思います。

「人は人との出会いによって成長していく」といわれますが、遅読によって得られる人格との出会いもまた、生きていく上でかけがえのない「出会い」のひとつです。

AI時代だからこそ、より大切にしたい営みではないでしょうか。

(齋藤孝『遅読』のすすめ「SB新書による。ただし、本文の一部を改変した。)

問題1. 本文を三〇〇字以内で要約しなさい。

問題2. 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に、漢字は読みがなを書きなさい。

問題3. 本文の中で説明されている遅読によって磨かれる「力」とは何か、「〇〇力」というように「力」で終わる三字熟語を1つ書きなさい。ただし、すでに文中に三字熟語で示されている「持久力」「表現力」は除く。

問題4. 「入学試験」をテーマに、短歌を一句詠みなさい(短歌の形式は定型の音節を用いること)。

問題5. 二重線部について、AI時代だからこそ、自分が大切にしたいことについて、例を挙げて四〇〇字以内で記述しなさい。